こんな先生いるよ！

「言葉や楽器の音への疑問から英語教育への応用を模索中」

教養教育研究院
神楽坂キャンパス教養部　講師
渡丸嘉菜子（とまるかなこ）先生

「私は、中学の頃から英語の語学留学をし、高校1年生の時にカリフォルニア州の高校に留学しました。それを言うと、欧米文化が染みついた人間と思われるかもしれませんが、自分は日本文化で育った〝日本人〟だと思っています。人に贈り物をする時なども、『気に入っていただけるか分かりませんが』という言い方がしっくりきます」と渡丸嘉菜子先生はあっけらかんと話す。

本学では主に英語を教えている。そのため、現在は英語がとても身近な言葉だが、最初から英語が好きだったわけではない。子どものころ親に勧められた英会話スクールは、「つまらないから」と勝手に辞めてきてしまったこともあった。

変化の時は中学生の時に訪れた。今でも交流が続き、恩師とも仰ぐ英語の先生に出会ったのである。

「この先生は発音がとても綺麗で、授業は理論的。ルールと規則を大切にされていて、文法を厳しく教えてくれました。それが自分にはとても合っており、そのおかげで英語が好きになりました」と話す。

渡丸先生は昨年度から本学教養教育研究院に着任し、経営学部の英語の授業を受け持っている。1、2年生向けリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能を必修科目として、3、4年生には実用英語、オーラル・コミュニケーション、インターナショナル・コミュニケーションなどを教えている。

「大学教育における「実用的な英語」をどう解釈するかですが、真の実用英語を身に付けたければ、現地に行くことに勝るものはありません。では大学で何ができるか。私は、英語しか使えないような状況下でも学生が自分で問題を解決できるよう、『仕組み』や『考え方』などを教え、自信をなくすことがないようにしたい。そのためには、『発音』もきちんと教えたい」と語る。

渡丸先生は、大学の授業とは別に、言語学、音声学を専門として研究を続けている。

興味の始まりは小さい頃から習っていたピアノだ。ピアノはこんなにたくさんの音が出るのに、どうして人が話す言葉の音と違うのか。「あ」の音でも「い」の音でもない。「ド」という音の音色だけがあり、「ド」と言っているわけではない。ピアノの音と人の言葉は何が違うのか、そんな疑問を小学校以前から持ち続けていたと言う。

「中学校に入って、英語に触れた時、同じような違和感を覚えました。『何か音が違う』『言っていることがわからない』、これは何が違うのか」ピアノの音で感じた違和感と同質のものをそこに感じたのだ。

世界の言葉にはさまざまな〝音〟がある。起源やその後の歴史など、多くの要素が言葉の多様性を生んでいる。

人間は同じ身体を持つのに、なぜ外国語は発音が難しい、うまく話せない、聞き取れないということが起こるのか。その不思議さに今も魅了されていると言う。

「音声合成など技術発展のおかげもあり、外国語教育や福祉、音声認識など、近年の研究テーマは幅広いです。難聴者やお年寄りの聞こえの支援につながることもあるのです」と話してくれた。

太田正人（ジェイクリエイト）

[写真左] 中学校時代の恩師に我が子を連れて面会に
[写真中] 2人目の子どものお宮参り
[写真右] 海外からやってきた研究仲間たちと